

## 若令肥育農協を訪ねて

総合畜連推進企画課長 安東 秀豊

本県の和牛肥育の主体は、県南部地帯であった。しかし、最近では生産と肥育を兼ねた複合経営が行なわれる傾向にあり、これまで和牛の生産地であった県北部において、新しい肥育形体である“若令肥育”が盛んになり、和牛経営を大きく変えようとしている。

特に県北は草資源に恵まれており、又肥育の素牛が手近に求め易く、そのうえに若令肥育牛は発育が旺盛で飼料効率が高く、飼育場所も狭くてすむこと、多頭化し易い点等集团的に飼育が可能であり、和牛経営に新しい活路が開けつつある。しかし、若令肥育に不可分の粗飼料の栽培が問題であるが、これも、水田裏作として、イタリアンライグラスの利用により飛躍的に、若令肥育の有利性が強調されることになり、今後の畜産として、土地に結びついた経営として、新しい和牛の経済性を高める面がクローズアップされた。

そのよい一例として、勝田郡勝加茂農協の実績を紹介してみることにする。

### 地域の概況

勝加茂農協地区は、那岐山（旧日本原演習場）のふもとの勝北町の南端に位置した水田 360ha、山林 150ha、その他で 900ha、農家戸数 550 戸、農家人口 2,500 人の農村で県北でも水田地帯としてこれまで酒米の竹田早生及びビール麦の主産地である。また畜産では早くより酪農が盛んであった。この地方は、全国的にも知られている“広戸風”の災害地でもあり、毎年のようにこの局地突風による農作物の被害は大きく、農業としては最悪条件を背景とした勝北町である。

農業の近代化を図るに、この天災に対応した産業であるとともに、この地域上げての総合振興対策と真剣さが必要である。

### 地域の計画

この地域は、自然条件から農業の選択拡大を畜産



振興に求め、その収入により経営の改善を図るより外にない状況に置かれている。農協においては、昭和 37 年年度に畜産 5 ヵ年計画を立て、昭和 41 年に乳牛 200 頭、鶏 10 万羽、和牛 500 頭、和牛肥育 300 頭、豚 1,000 頭を計画し、現在の生田農協組合長を中心に、安井畜産担当技術員のたゆまぬ活動と努力が続けられ、目標完遂と地域の農業の近代化が進められている。

和牛肥育については早くも昭和 32 年頃から始められ、はじめは老廃牛の肥育が主体であったが、昭和 35 年頃から和牛子牛の規格の向上に併せて、若令肥育が主体になり、また若令肥育は肥育期間が少々長期であり、その間の濃厚飼料がかさむので、この改善策として、良質の自給飼料との組合せを確立されたため一段と若令肥育の有利性が認識され普及されたものと思う。

### 地域の現況

未合併の小農協であるが、地域の事業の振興を図るために農協傘下組織として、畜産部門ごとにそれぞれ組合を結成し、農協を中心にした、指導並びに事業推進が図られており、和牛肥育についても肥育組合を結成し、グループ活動が活発である。

### ◇肥育頭数

当地域は、これまで和牛の生産地であり、現在の飼料頭数は 110 頭で、そのうち 80%以上が若令肥育で占めており最近では和牛生産と肥育と併せた和牛の

複合経営形態が表われ、それも和牛が用畜（肉畜）としての有利性から漸次増えている傾向にある。

◇資金対策

今後の肥育事業推進を図る上から、農協においては『和牛肥育事業資金（素牛購入）貸付農家選定基準』を定め、1頭当り25,000円を頭数には制限なく融資しており、貸付期間は15ヵ月間とし、貸付金利は日歩2銭5厘で肥育組合を通じ貸付し、借受者においては、農協から示された義務の履行と、肥育牛の販売についても共同販売を原則に、農協事業活動を円滑にしている。

◇販売実績及び経営概況

昨年中農協経由販売頭数は90頭、1頭平均価格101,000円、出荷生体重450kg（120貫）であった。

肥育経営の合理化を図るため、昭和36年37年度と県畜産会の『畜産技術経営診断指導事業』の実施指定を受け、その指導は、勝央農業改良普及所、総合畜産連勝田支所より定期指導を受けて集団指導効果を上げている。経営について、下表の通り経営診断結果を纏めている。

若令肥育牛の共進会

農協および肥育組合の共催により、若令肥育を主体にした“第2回勝加茂地区若令肥育共進会”を昨年に引続き、このほど開催した。審査は、管内指導機関の協力をえて、審査長には美作農林事務所題府畜産係長が当り、来賓としては地元農林事務所、農



若令肥育牛共進会風景

協の要職の列席のもとに1日を共進会に併せて、若令肥育の研究、検討の場として畜産振興に実が上った。

共進会の終了後は、販売希望肥育牛の『即売会』が開かれ、地元業者、阪神方面からの購買があり、当日の行事が最終の経済に結びつきいきた催しになった。

農協では肥育農家の肥育管理を便にし、集団効果を上げるため、農協独自の体験を基にイタリアンライグラスを主体にした『若令肥育飼料給与基準』を配布し、また定期的な肥育牛の検査現畜研究会を開き、検査には体重、体高、胸囲等の測尺、ホルモン剤の注入等を行い肥育記録簿を作り、たえず管内の肥育牛の実態を知り、お互いの肥育牛の研鑽の場として集団指導効果をあげている。

農家番号	診断期間	飼養規模	飼養目的	概算粗収益			概算経営費					差引純収益	概算所得	1日当り家族労働報酬
				概算粗収益	肥育収入	厩肥収入	概算経営費計	肥育素牛購入費	入飼料	自給飼料	給自労働費			
		頭		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
1	37.4~38.3	10	若令肥育	1,205,000	1,185,000	20,000	857,000	550,000	70,000	125,000	112,000	348,000	460,000	2,875
2	"	4	"	397,000	391,000	6,000	320,600	190,000	28,000	44,000	58,100	76,400	134,500	1,620

グループの問題点	問題点に対する指導の方法	問題点の改善状況と今後の改善方法
経済的考え方のあり方	記帳能力の養成（集団指導と個別指導）	役牛的非経済観念が多く支配する向きがあり、記帳により収支の別を明らかにして直にもうかる肥育事業であるよう指導する。この面の講習会、研究会を行なう。
効率的な飼料給与	飼料計算の普及、自給飼料の確保	事業規模による自給飼料の生産計画、飼料、種類の選択水田裏作の高度利用による飼料計算による効率的な給与等、それぞれ講習会、研究会を行う。
畜舎の設備が悪い	労働時間の短縮、多頭飼育の奨励	なるべく経費をかけずに手間のかからぬよう畜舎を改善する。労力の節減により多頭飼育を奨励し、最低年間5頭以上出荷する。
素牛の選定、知識が低い	実地による研究会、現在の子牛状態観察の他に親牛の素質についての研究	素牛導入に当り子牛の現況のほかに親牛の素質について研究する月例研究会を実施しているが、その他セリ市等においても実施に研究を行う。
牛の観察力が低い	共進会、月例研究会、講習会等の開催により観察眼を養う	素牛と飼料と増体率、肉質等一連の経過を検討し、今後の参考とする為、と殺場の視察を行い研究をする。
流通問題の改善を要する	正当な枝肉取引の実施	生産に通ずる販売面の改善は必須の要件であり、農協一元集荷による枝肉取引に改善するよう啓蒙する。そのため枝肉セリ市場等の視察を行う。

**自給飼料にイタリアンライグラスの栽培**

自給飼料は水田裏作利用として、飼料価値の高い、また生産性も高いイタリアンライグラスを栽培し、特にこの普及に力を入れ、年内において2～3回の利用目標（全期刈取回数7～8回）にして、稲作との組み合わせも



イタリアンの栽培（二月）

十分考慮のうえ今年は飛躍的に、イタリアンライグラスの作付けが増反された。農協での種子取扱量も40俵（1俵45kg）に達し、作付け見込みは50ha以上で昨年よりも5haは増反され、若令肥育とイタリアンライグラスとは、絶対不可離の状態で普及作付けされている。

**若令肥育のモデルファームの投置**

こんごの若令肥育の経営規模を一定線にま高める

ためにモデルファームを設置し、これに対しては農協が一定の資金ならびに指導、販売を責任をもって援助し、地域の肥育農家に模範を展示するとともに、指導の徹底を図ろうというもので勝央町農業改良普及所の指導により、このほど1ヵ所建築された。これは軽鉄骨、ストールバン、自動給水装置をそなえ、換気もよく、使用しやすく、そのうえ建築費にも無理がない近代的畜舎であって、常時10頭の飼育が可能なるものである。つづいて2～3ヵ所、モデルファームの建築計画もあり、この地区の肥育に対する意欲が感じられる。

**自給飼料を主体にした模範農家の育成**

総合畜連の『自給飼料を主体にしたホルモン剤利用の若令肥育試験』を引受けて1ヵ年にわたっておこない、若令肥育の経済性と、自給飼料およびホルモン剤利用の有利性について確信を深め、一般の肥育農家に参考資料を提供し、こんごに一そうの自信を得ている。

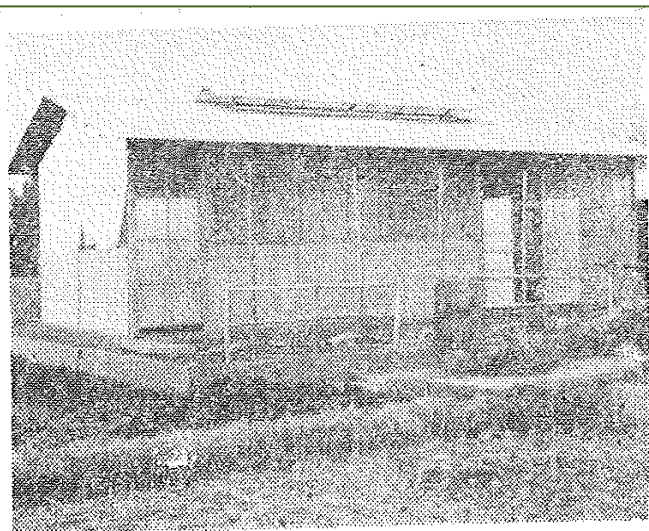
この試験牛が“第2回岡山県肉畜共進会”に出品されたので、一部の記録と写真を披露してみる。

1月セリ市購入の場合若令肥育飼料給与基準（例）

飼育月別	月令	Kg 体重(%)	飼料標準		飼料給与の内訳(例) (一日一頭当り)	飼料成分		成分割合
			DCP	TDN		DCP	TDN	
1	8	200K (53)	0.466	3,775	イタリアン(生)8K 米ヌカ 250g イタリアン(干)2K フスマ 300g	0.463	2,700	1 : 6
2	9	225 (60)	0.495	4,161	イタリアン(生)10K 米ヌカ 250g イタリアン(干)2K フスマ 300g	0.512	2,982	1 : 6
3	10	250 (67)	0.523	4,511	イタリアン(生)22K 米ヌカ 250g	0.575	3,368	1 : 6
4	11	275 (73)	0.549	4,860	イタリアン(生)24K 米ヌカ 250g	0.625	3,656	1 : 6
5	12	300 (80)	0.571	5,155	イタリアン(生)27K 米ヌカ 250g	0.700	4,088	1 : 6
6	13	325 (87)	0.593	5,417	イタリアン(干)7.5K 米ヌカ250g	0.770	4,520	1 : 6
7	14	350 (93)	0.615	5,680	上期 デントコン15K 馬鈴薯3.75K 大麦1.2K イタリアン(干)2.5K 米ヌカ250g フスマ300g	0.611	5,670	1 : 9
					下期 デントコン10K 馬鈴薯3.75K フスマ600g 米ヌカ250g 大麦1.2K 豆粕400g			
8	15	375 (100)	0.637	5,957	野草8K 馬鈴薯3.75K フスマ600g テオシ ント20K 大麦1.6K 豆粕250g 米ヌカ250g	0.654	5,941	1 : 9
9	16	400 (107)	0.730	6,500	イタリアン(干)2.5K 馬鈴薯5K フスマ600g テオシント15K 大麦1.6K 米ヌカ250K	0.704	6,369	1 : 9
10	17	425 (113)	0.750	6,800	イタリアン(干)2.5K 甘藷7.5K フスマ900g 甘藷ヅル11K 大麦2.6K 米ヌカ250g	0.751	6,845	1 : 9
11	18	450 (120)	0.770	7,900	イタリアン(干)3.75K 大麦3.6K 米ヌカ250g 甘藷9.4K フスマ1K200g	0.968	8,140	1 : 9.5
12	19	475 (126)	0.703	6,840	イタリアン(干)3.75K 大麦3.6K 米糖250g 甘藷9.4K フスマ1K200g	0.968	8,140	1 : 8.5
1	20	500 (133)	0.714	7,007	同上に準ずる			



モデルファームの内部



モデルファームの外観

**むすび**

若令肥育が儲からないという一般の考え方があるとき、また和牛の経済性が強く批判されている今日、経営的に技術的に改善すれば和牛の生きる道が、いまなお残されていることである。

これからの農業変革期に容易に取組める要素が多く、危険性も少なく、省力的飼育管理も可能性があり、市町村、農協の振興施策についても安全容易で、畜産団地としての計画、推進が簡単であるという優位点がある。

なお、肥育経営特に若令肥育にはこんご技術、経

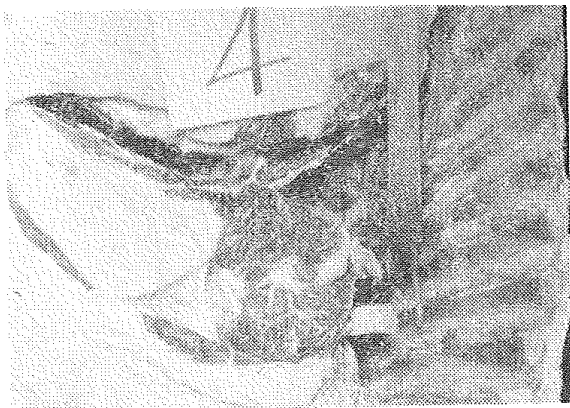
営に余りにも改善を要する点が多く、従って経済的に開発される面が多く残されているだけに、こんご大いに期待されるものと確信する。

このことはひとり、若令肥育のみの改善でなく、和牛生産から肥育にいたる、和牛全般にわたる経済の一貫性が築かれるものと思う。

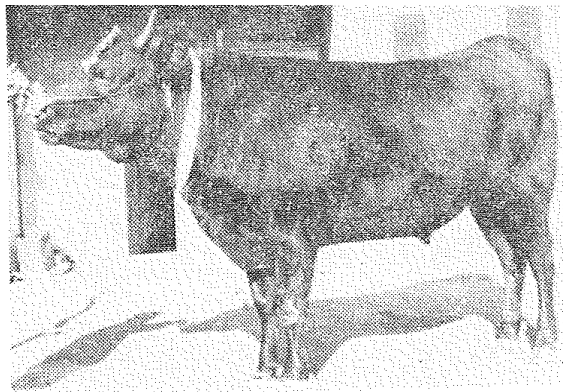
早急に有利な新しい肥育経営形態の体系が一般に普及されることを切望するものである。

区分	購入時 昭37.11.19	屠殺時 昭38.12.20
体高	112cm	131cm
胸囲	139cm	191cm
体重	226Kg	567Kg

対象牛 生年月日	肥育期間	増体量	一月平均 増体量	一日当り 投下労働力	売上金	素牛代金	飼料代金	ホルモン 剤代金	差引所得	一日当り 労働報酬
昭37.3.4	395日	341Kg	26.23Kg	1時間	145,256円	54,000円	32,114円	4,600円	54,542円	1,104円



試験牛のローズ



出品前の試験牛